

## NGO報告会 「COP 1 2、COPMOP2はどんな会議 だったか」

2006年12月15日南青山会館

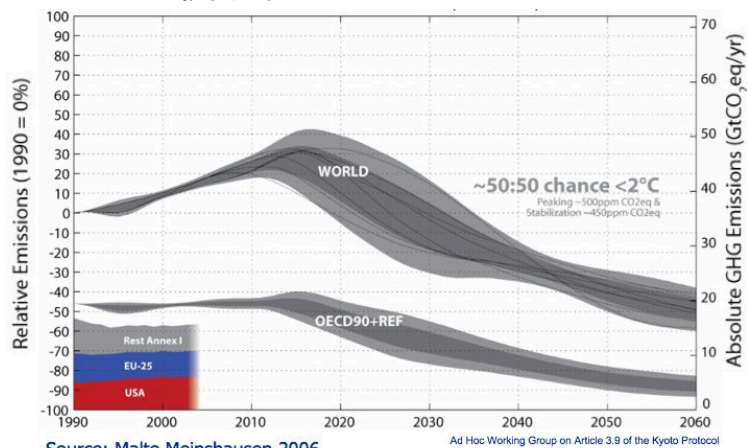
FoEJapan小野寺ゆうり

[www.foejapan.org/climate/](http://www.foejapan.org/climate/)

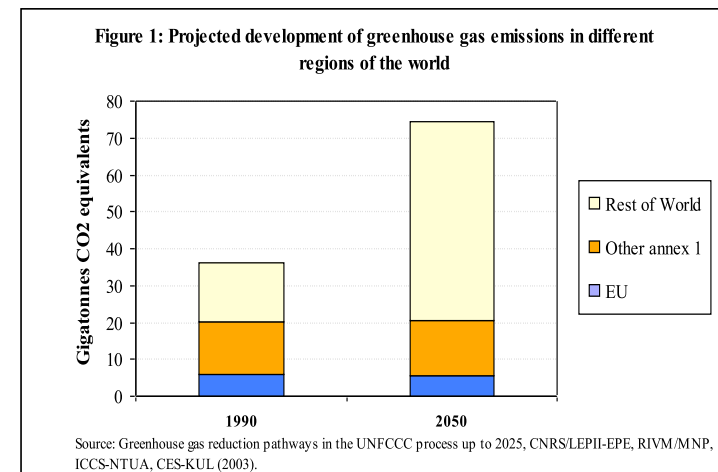
## ポスト2012政府間交渉の流れ

- 京都議定書の下での：
  - ★ 3条9項に基づく作業部会 (AWG)
  - ★ 9条に基づく見直し (レビュー)
  - \* ロシア提案
- 気候変動枠組条約の下での：
  - \* 4回の対話ワークショップ
- クリーン開発メカニズムCDM
- 温暖化の影響に脆弱な国への適応支援
- 森林減少

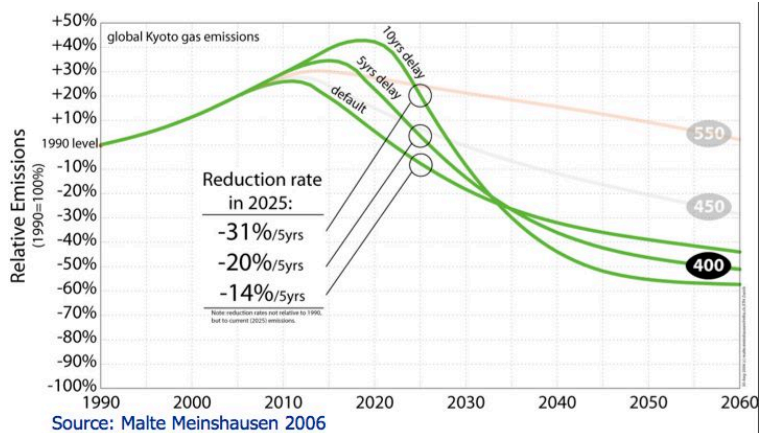
## 排出量のギャップ



## グローバルな排出抑制と削減



## 早急なアクションが必要



## ポスト2012の主要プロセス

- 3.9作業部会 (AWG)
  - 京都議定書附属書Bの改訂
  - 削減ポテンシャル・手法の分析、
  - 約束期間の長さ、先進国目標の形式
  - 改正手続
- 9条レビュー
  - 議定書、条約を含む見直し
  - 条約の究極の目標 (第2条) 妥当性の評価と途上国排出抑制
  - 適応支援見直し他
- 条約『対話』ワークショップ
  - 米豪も参加した対話、決定は行わず議長報告のみ計4回2007年迄

## 3.9作業部会合意の主な点

- ▶ 先進国の次期目標策定の為に必要な分析検討項目合意
  - 1.削減ポテンシャル、2.削減手段、3.国別絶対排出量目標と約束期間
  - ※法的手続き
- ▶ 2007年度の作業部会の作業計画合意
  - 削減ポテンシャル分析から始め来年度三回会合
- ▶ 条約第2条の究極の目標への言及
- ▶ 条約及び議定書の下での他のプロセスからの結論を考慮との言及
- ▶ IPCC第四次評価報告書 (2007) の結果を考慮
- ▶ 次期約束期間との間にギャップを作らない
- ▶ 来年2月下旬迄に各国の意見提出
- ▶ 政治的メッセージ (炭素市場継続)

## 9条レビューの主な合意点

- ▶ 第一回目のレビューはナイロビで終えたものとする
- ▶ 第二回レビューは2008年に行う
- ▶ IPCC第四次評価報告書 (2007) の情報を考慮する
- ▶ 議定書締約国会議の今後の決定を制約しない、またどの国に対しても新規の責任を加えるものではない
- ▶ レビュー結果に基づき議定書会議でしかるべき措置
- ▶ 来年第三回締約国会合 (COPMOP3) で見直しの範囲と内容を検討
- ▶ 来年8月迄に国別意見提出

オープンエンドな2年間のプロセス枠組みに合意したが中身は来年合意に持ち越された。他のプロセスへの言及はなし。

### 今後のプロセス

